令和５年度　学力向上推進計画１

学校種	中	学校名	砥部町　立　砥部中　学校
学校番号	４１	校長氏名	藤井　忍
期間	R5.4～R5.9	学力向上推進主任氏名	折本　崇

1 Plan　計画

【現在の子供の姿】

○　落ち着いて授業に取り組むことができる。
○　基礎・基本の学力が不十分である。
○　自分の思いや考えを表現する力が弱い。

身に付けさせたい資質・能力	具体的な取組　※ＩＣＴ機器、ＥＩＬＳの活用
ア　学力の基盤となる基礎的・基本的な知識や技能 イ　自分の考えや気持ち、学びを言葉にして伝える力	ア　１日に１回以上タブレットの活用場面をつくる。また、どの教科においても各学期１回以上の EILS を活用したドリルやテストを実施する。 イ　原則、毎時間、学びを振り返る「リフレクションタイム」を設定して、生徒に学びを言語化させる。 イ　短学活を活用して、「問答ゲーム」を計画的に実施して生徒のコミュニケーション能力を育む。

2 Do　実践

全教職員による共通実践

3 Check　評価　※ＩＣＴ機器、ＥＩＬＳの活用

【成果○と課題●】

○　各授業の終末に学びを振り返る「リフレクションタイム」を設定することや ICT 機器を活用した授業改善に取り組むことで、７月に全校生徒を対象に実施した学習状況アンケートにおいて、80%の生徒が「授業が分かる」という肯定的な回答をした。

○　エイリスの問題作成機能を活用して、CBT での小テストや期末テストを実施することで、生徒への即時のフィードバックが可能となり、技能面を見取るパフォーマンステスト等に時間を充てることができた。また、全国学力・学習状況調査の生徒質問紙における授業での ICT 機器活用頻度に関するアンケートでは、「ほぼ毎日」、「週に３回以上」と回答した生徒の割合が 70%以上で、昨年度よりも約 50%上回った。

●　タブレット等の ICT 機器活用頻度は、教科や教師による差が依然として大きい。

●　「学習課題」と「まとめ」を一体化するための振り返り活動(リフレクションタイム)がまだ定着していない。

4 Action　改善案（課題をより明確にし、取組や評価方法の検証・改善）

★　「目標」と「指導」と「評価」の一体化を図る一つの方策として引き続き「リフレクションタイム」や EILS の活用促進を継続することで、「授業が分かる」と思える生徒の割合を増やす。	→ 次サイクルへ